



## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 愛眼株式会社

コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長

(氏名) 下 祥造

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成26年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	4,100	△0.1	△90	—	△74	—	△102	—
26年3月期第1四半期	4,102	1.2	△184	—	△158	—	△183	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 △93百万円 (—%) 26年3月期第1四半期 △166百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	△5.26	—
26年3月期第1四半期	△9.48	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	18,108	15,503	85.6
26年3月期	18,568	15,596	84.0

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 15,503百万円 26年3月期 15,596百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,762	1.9	32	—	69	—	12	—	0.64
通期	17,389	2.3	77	—	136	—	28	—	1.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	21,076,154 株	26年3月期	21,076,154 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	1,666,524 株	26年3月期	1,666,514 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	19,409,638 株	26年3月期1Q	19,409,746 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業の労働需要の高まりによって人手不足感が強まり、雇用環境は底堅く推移するものの、輸入価格の上昇や生産拠点の海外シフト、企業の競争力低下、新興国景気の減速等による輸出の低迷など先行き不透明な状況で推移いたしました。個人消費につきましても、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減や天候不順によるマイナス影響が見られました。

このような状況のもと当社グループは、事業構造改革を推進し安定的な成長を目指した活動に取り組んでおり、前期の「本気、アイガン！」に続き、今期は「あなたにAnswer！」を掲げ、お客様の眼鏡全般に関する疑問を真摯に受け止め解決しながら、ライフシーン毎にお役に立つアドバイスやサービスの提供に努め、疑問の解消と支持信頼のアップを図ってきました。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、消費税率アップに伴う高額商品の前期末における先買い需要の反動減等により、売上高は4,100百万円（前年同四半期比0.1%減）となりました。売上総利益率が0.9ポイント改善したことや、新規店舗の開設がなかったことで消耗品費等の支出が減少したため、営業損失は90百万円（前年同四半期は営業損失184百万円）、経常損失は74百万円（前年同四半期は経常損失158百万円）、四半期純損失は102百万円（前年同四半期は四半期純損失183百万円）となりました。「NEW愛眼プロジェクト」の推進と一層のコスト削減に取り組み、営業基盤の強化に努める所存です。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### [眼鏡小売事業]

当社グループの中核である国内眼鏡小売事業においては、NEW愛眼プロジェクトを着実に推進し、店舗のリニューアル、店名ロゴの変更、メガネ一式価格「スマートプライス」を活用した商品の演出と提案、マス媒体やインターネットを活用した広告宣伝などの営業活動を適時に実施してまいりました。

「あなたにAnswer！」を実践するため、「おもてなし部」主導のもと社員教育を充実し、お客様がライフシーン別に快適なメガネを着用することで暮らしをよりエンジョイしていただくためのアドバイス＝「アイスタイリング・サービス」を推進し、お客様の満足向上、購買促進を図っております。

また、オリジナルブランドの中心に成長した「POCOP」やクールビズメガネ「クリアフィット」、子供用メガネ「ビバラキッズ」、釣り用偏光サングラス「ストームライダー」などのバージョンアップを継続、品質の向上を図り順次市場に投入しました。各種メディアへの露出機会も増え、業種の枠を超えた営業活動を展開し、新たな需要の掘り起こし、ニッチな市場への販路拡大を進めました。なお、露出機会が多く販売数を伸ばしている「FORゆ」の新型についても、近々の投入を予定しております。

店舗に関しては、「NEW愛眼」へのリニューアルが大型自社物件を除きほぼ一巡しつつあるものの、9店舗の改装を実施し明るく清潔感のあるイメージ作りを推進しております。

売上に関しては、チラシを中心にセール告知、新商品の紹介等を実施し集客を図った結果、眼鏡、サングラスで販売数は順調に増加しましたが、眼鏡販売単価は消費税率アップに伴う高額商品の前期末における先買いの影響もあり低迷が続きました。利益については、オリジナル品の在庫構成比率アップ、集中販売などで売上総利益率は改善しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は3,877百万円（前年同四半期比0.3%増）、セグメント損失は67百万円（前年同四半期はセグメント損失157百万円）となりました。

#### [写真館事業]

写真館事業においては、上半期は季節指数が低く需要が低迷するため、様々な販促ツールを活用し七五三、新入学、結婚記念、ファミリー集合写真等幅広い年代、階層の撮影写真や着物レンタルに対応してまいりました。十歳記念写真や、子供情報誌「ドリームガールズ」のモデル募集コラボ企画、ジュニア時計モデル募集企画などの七五三ターゲットを更に拡大する子供新企画を実施しました。

また、子供の記念写真以外に、成人式の振袖記念写真や2015年成人式、2016年成人式の振袖レンタルの予約確保のための販売促進を強化し、売上アップに取り組んでおります。店舗に関しては、売上低迷が続く不採算店1店舗を休業しました。

売上に関しては、昨年オープンした近鉄あべのハルカス店などが好調なものの、前期の1店舗閉鎖や休業の影響もあり、売上高は30百万円（前年同四半期比14.8%増）、セグメント損失は20百万円（前年同四半期はセグメント損失22百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は18,108百万円、負債合計は2,605百万円、純資産合計は15,503百万円となりました。前連結会計年度に比べ負債合計が366百万円減少し、純資産合計が93百万円減少した結果、自己資本比率は85.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,428	4,465
受取手形及び売掛金	1,173	765
商品及び製品	2,772	2,699
原材料及び貯蔵品	28	30
その他	154	210
貸倒引当金	△11	△7
流動資産合計	8,547	8,164
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	6,739	6,720
減価償却累計額	△5,453	△5,441
建物及び構築物（純額）	1,286	1,279
土地	1,945	1,945
リース資産	4	4
減価償却累計額	△0	△0
リース資産（純額）	4	4
その他	2,510	2,497
減価償却累計額	△2,302	△2,290
その他（純額）	207	207
有形固定資産合計	3,444	3,436
<b>無形固定資産</b>		
リース資産	14	34
その他	60	57
無形固定資産合計	75	91
<b>投資その他の資産</b>		
敷金及び保証金	4,124	4,061
投資有価証券	1,491	1,517
その他	885	838
投資その他の資産合計	6,501	6,416
固定資産合計	10,021	9,944
資産合計	18,568	18,108

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	733	563
1年内返済予定の長期借入金	60	60
未払法人税等	127	37
賞与引当金	—	53
その他	1,084	920
流動負債合計	2,005	1,634
固定負債		
長期借入金	345	330
繰延税金負債	50	56
再評価に係る繰延税金負債	7	7
資産除去債務	356	353
その他	206	223
固定負債合計	965	971
負債合計	2,971	2,605
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	6,549	6,447
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	17,939	17,837
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	97	111
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	32	26
その他の包括利益累計額合計	△2,342	△2,334
純資産合計	15,596	15,503
負債純資産合計	18,568	18,108

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	4,102	4,100
売上原価	1,322	1,284
売上総利益	2,780	2,815
販売費及び一般管理費	2,964	2,905
営業損失(△)	△184	△90
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	5	6
受取家賃	10	13
物品売却益	16	—
その他	12	10
営業外収益合計	52	34
営業外費用		
支払利息	1	1
固定資産除却損	13	3
賃貸費用	8	12
その他	3	1
営業外費用合計	26	18
経常損失(△)	△158	△74
特別利益		
投資有価証券売却益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
投資有価証券評価損	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△157	△74
法人税、住民税及び事業税	27	28
法人税等調整額	△0	△0
法人税等合計	26	27
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△183	△102
四半期純損失(△)	△183	△102

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△183	△102
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	13
為替換算調整勘定	8	△5
その他の包括利益合計	17	8
四半期包括利益	△166	△93
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△166	△93

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計			
売上高						
外部顧客への売上高	3,867	26	3,893	208	—	4,102
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	20	△20	—
計	3,867	26	3,893	229	△20	4,102
セグメント利益又は損失(△)	△157	△22	△179	2	△7	△184

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

(注) 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△10百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

(注) 3 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計			
売上高						
外部顧客への売上高	3,877	30	3,907	192	—	4,100
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	18	△18	—
計	3,877	30	3,907	211	△18	4,100
セグメント利益又は損失(△)	△67	△20	△87	0	△3	△90

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

(注) 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△6百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

(注) 3 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、報告セグメントが「眼鏡小売事業」のみであるため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、前連結会計年度より、「写真館事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。